



慢性腎臓病によるリン・カルシウム代謝異常の管理に新たな一手

検査項目
FGF23症例 No.
8

先行する疾患に続発して発症した慢性腎臓病 (CKD) の犬において血中FGF23濃度が治療により低下した症例

症例プロフィール

基本/疾患情報

ポメラニアン、
10歳齢、避妊雌、1.9kg。

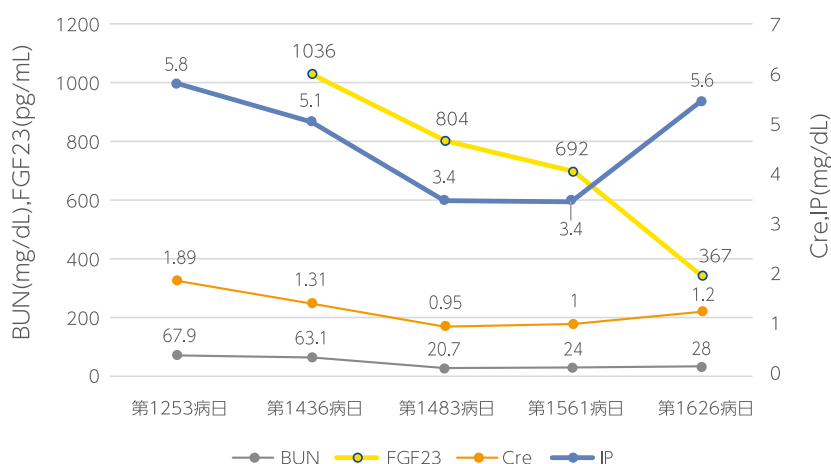
来院目的

経過観察を目的に来院。

診断

第706病日に血液検査の結果より
CKDステージ1と診断。

(図) FGF23と腎関連項目 血中濃度の推移



治療内容・経過

第706～892病日

経過観察にて血液検査を測定した結果、BUN、血中Cre濃度、シスタチンCが高値を示したためステージ1と診断。第892病日には血中Cre濃度、シスタチンCの数値がさらに高値となり、薬とサプリメントの使用を開始した。

第1253～1626病日

第1436病日にFGF23を測定し1036pg/mLと高値であったことから別のリン吸着サプリメントを追加し、食事内容も通常食から腎臓病用療法食へ変更した。その後BUN、血中Cre濃度、血中FGF23濃度が低下を示し、第1626病日には血中FGF23濃度の数値が参考基準範囲内へ収まった。

第1656病日

併発・基礎疾患の悪化により死亡した。

考察

本症例は、CKD発症の前から心臓や甲状腺の疾患があり治療を行っていた症例である。

経過観察中にFGF23を測定し、リン・カルシウム代謝異常への追加の治療を行うことでCKDは安定したと考えられる。

血中FGF23濃度に関しては、治療により検査値が下がったが全体の症状に向けての治療コントロールは難しかった。

本症例の第1626病日の血中FGF23濃度と血中IP濃度については、フィードバック機構がうまく働かず、リン・カルシウム代謝異常は様々な要因によって影響を受けているため、血中IP濃度が高くなったと考えられる。

この症例は、経過観察中から併発疾患の心臓病の発作や甲状腺疾患の症状が現れており、その併発疾患の悪化により亡くなった。

【症例提供・監修】 浜松市 橋本動物病院 院長 橋本雄一郎先生